

シャント穿刺部癒痕に対するカロテン含有クリームの有用性

(医) 衆和会 桜町病院

○江藤りか 山口保子 矢野未来 田添好恵 稲田るり子 内野拓寿
田川秀明 飯野八郎 船越 哲 原田孝司

【背景】

透析患者は週3回の穿刺に伴い反復性の外傷を受けるため、癒痕(肥厚性癒痕)を形成する場合があります、症例によってはQOL低下にかかわる重大問題となる

【目的】

血液透析患者の穿刺部皮膚における、市販のカロテン含有クリーム(化粧品)の皮膚癒痕・変色予防効果を検討する

【対象・方法】

当院外来透析通院中の患者のうち、本研究の趣旨を提示して参加に賛同を受け、適切なICを得られた7名(男性3名、女性4名、平均年齢64歳)に対し、動脈側にカロテン含有クリーム、静脈側にコントロールを塗布し、治療前後の2週間で肌色計(モリテックス、東京)および表在エコー(GE横川、東京)にて定量的比較を行った

【結果】

カロテン含有クリーム塗布前後で、明度は56.7から59.9へ明るくなった(P=0.03)。

表皮の厚さは、0.79mmから0.52mmへ低下した(P=0.003)

皮膚びらん等の副作用は、カロテン含有クリーム、コントロールともに認めなかった

【考察】

肥厚性癒痕の治療としてはステロイド外用薬が有用とされているが永続的に使用することはできず、またヘパリン類似物質などのevidenceはない。今回の結果により、使用したカロテン含有クリームはシャント穿刺のみならず一般的な外傷性肥厚性癒痕の治療としても期待される。

シャント穿刺痕を気にする患者にとってもQORの向上に寄与すると考えられる。